ともに生き、学びあい、育ちあう学校をめざして

子どもの姿を出発点とした豊かな学びの創造を

枝松かおり（三重県教育文化研究所 所長）

三重県教育文化研究所は、1989 年に「民主教育の確立をめざす理論ならびに実証研究と県民の文化向上に寄与する」ことを目的に、第 39 次教育研究三重県集会において発足しました。すでに「三重県教育研究センター」が設置されていましたが、三重県教職員組合が憲法や平和をたいせつにする教育実践をより深めるため、新たに設置しました。

子どもたちが未来に夢と希望をもちつづけられる社会を実現するために、学校、保護者、地域のあり方を問い直し、子どもたちが仲間とともに学びあうなかで、社会で自信をもって生きていけるよう、三重の教育づくりに努めています。おもな活動としては、研究助成、調査・研究、所報の発行、学習会の開催等です。

2022 年度は、研究テーマ「ともに生き、学びあい、育ちあう学校をめざして　子どもの姿を出発点とした豊かな学びの創造を」にそって自主的に創造的なカリキュラム開発にとりくむ学校･個人･サークル・団体に助成しました。

研究所に寄せられた各学校やサークルの実践は、子どもや地域の実態をふまえた豊かな学びや体験が大切にされており、子どもたちが思いを出しあい、仲間とともに課題を解決していく姿、地域のなかでいきいきと活動するようすが報告されています。

また、「子どもたちが直面する課題」として、成年年齢引き下げによる課題について調査・研究をすすめ､実態をふまえた学習教材（「消費者トラブル」）の作成にとりくんでいます。

他にも主権者教育の学習教材として、これまでに作成した「憲法のおはなし」（紙芝居版・CD‐R版）の活用もすすめています。

2016 年には三重県教職員組合からの委託を受け、過去の歴史の真実に学び、日本国憲法の理念をふまえ、平和な社会の実現を目的に、三重県教育文化研究所内に「平和資料センター　みえ」が設立されました。おもに平和資料の収集・整理、貸し出しをおこなっており、これまでも各支部・団体で開催された「戦争展」等で活用されています。

戦後 75 年以上が経過し、その時代を生きてきた人々から直接お話を聞くことがむずかしくなっていきます。戦争が過去の出来事として風化し、人々の努力によって守られ国際社会の信頼を得てきた平和憲法をも変えられかねない状況にあります。そして、今もなお、世界各地で戦争や紛争が絶えず、核兵器廃絶もいまだ実現していません。また､貧困や飢餓、環境破壊や差別、人権の抑圧などといった平和をふみにじりいのちを脅かす課題も山積しています。

教育の名のもとに多くの子どもたちを戦場におくりだしたことを深く反省し、だれもが安心して暮らせる社会の実現にむけ、さまざまな実践にとりくめるよう、ひきつづき平和資料センターの充実をめざしていきます。



三重県教育文化研究所
〒 514-0003　三重県津市桜橋 2 丁目 142
三重県教育文化会館内
TEL/FAX　059-228-5486
E-mail：kybnkn@mtu.ne.jp